

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2012年7月30日発行 第58号

ムさんからの報告

今回は西川会長からのバンコク便りはお休みします。

代わりにキャンヘルプタイランドの現地協力団体 FREE のムティターさんが、チェンマイにある学生寮「カサロンの家」を訪問してくれたので、その報告です。

- ① 昨年度のカサロンの家支援事業。洪水等で建設途中だった水タンクが、ようやく完成しました。寮の普段の生活水は井戸からポンプでくみ上げているのですが、停電等でポンプが動かないときがあり、生活に不便を感じていたため、水タンクを増設し、水不足を解消しました。



- ② 寮の壁の改修工事もきれいに仕上がりました。経年劣化していた土壁を新たに塗り直しとてもきれいな外観となりました。建物の周辺にはいろいろな種類の木が植えられ、とても環境の良い寮となってきました。



- ③ 韓国の団体からの寄付により新たな建物が完成。初めは1棟しかなかった寮も徐々に建物が増え、今は食堂も合わせて5棟に増えました。



- ④ 飼育小屋の豚も新たに購入され、子豚を生産しています。生まれた子豚は山奥に住んでいる寮生の親や村人にプレゼントされます。



- ⑤ 寮には現在 22 名の子どもたちが生活しています。親元から離れても快適に生活できる環境が徐々に整ってきました。

- ⑥ 希望の家、カサロンの家の様子はフェイスブックに定期的にアップされていますので、どうぞご覧ください。

<http://www.facebook.com/with.loves.and.cares>

報 告

～2012 年度奨学金授与式～

報告者：松本

今年の授与式は6月29日（金）から7月5日（木）まで昨年総選挙の影響で中止したスリン県も含め11の県で事故もなく行う事が出来ました。この期間中に休日をはさむために休日に授与式を実施する県が偏らないように日程を組み昨年とは逆の順番でマハサラカーム県からスリンへと移動する事となりましたが、次の県までは当日実施した県の教育委員会の車で送っていただくので（もちろんガソリン代や運転手さんへの手当てはお支払いしますが）移動に際しての面倒くささがなく授与式に精力を集中する事が出来るように各県の教育委員会のご協力を頂いております。

例年この時期は雨季の始まりでもありどこかで雨に降られるのですが今年はサコンナコンからムクダハンにかけての2日間が雨に降られ子供たちにも雨の中での集合という影響が出ましたが欠席も無く授与式を行う事ができました。

教育委員会の方の挨拶で共通していた事は（毎年ほとんど同じ内容ですが）

- ・ 我々スタッフが直接来てくれた事への感謝
- ・ 学生はしっかり勉強して国の役に立つ人になって欲しい
- ・ 奨学金はその目的のために使って欲しいと言うことでした。

今年の松本の挨拶は「 キャンの奨学金は正しい行いが出来る子供たちを支援する目的なので（もちろん経済的に恵まれていない事が前提ですが）、今後とも勉強や手伝い、そして将来働くようになってからも正しい行いを続けて欲しい 」と伝えました。そして、去年は子供たちへ手渡したタイ語のキャンのパンフレットを、今年は新規の生徒と先生、教育委員会のスタッフの皆さんや当日会場に来られたご家族の皆さんへも手渡しました。先生の中にはパンフレットの内容について質問をされる方もおられ、教育委員会の挨拶のときにも参照されていて、来年もパンフレットを配ろう！！ と思いました。

今年も継続生徒へ「 何か出来る事を用意してきて欲しい 」旨の通知をしましたが2年目と言う事もあり昨年とはちがった生徒が「 出来る事 」をやって来て、その内容も昨年よりバラエティーに富んだものとなり、「ピン」というタイの民族楽器（ギターのようなもの）での民族音楽の演奏、英語や日本語でのスピーチ、自分たちの手作りの品を披露する等昨年同様に楽しいひと時を過ごす事が出来ました。ただ同じイサーン地方でもロイエットやマハサラカーム、ナコンパノムやムクダハーン、プリラムやサッケオ等「 積極さにも県民性 」があるものだなあとも感じました。なお披露してくれた生徒には提携団体である「 FREE（フリー） 」のご協力で切手シートやキーホルダー等のちょっとしたお礼を渡しましたがその品々を無償でご提供いただいた「 FREE（フリー） 」にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

今年も2人の生徒の家を訪問しましたが、子供たちが置かれている家庭環境（片親か両親ともいない）や経済状況（貧しいという言葉だけでは表現しきれない様子）は「 こんな生徒にこそ奨学金は必要なんだ 」と改めて実感させられました。ただ救いだったのはその生徒たちがそのような環境の中で本当に「 まっすぐ 」生きている様がひしひしと伝わって来て来た事でした。私は、この奨学金を励みとしてこれからも「 まっすぐ 」生きていってほしいと心から願わずにはおられません。そんな生徒の家を去る時に、このような生徒と我々を結んでくれた先生や教育委員会の皆さんの（無償での）

協力に改めて感謝の気持ちを抱きました。ドナーの皆様には、後日送付させていただく各種書類をご覧になるときに「申請書（状況）や手紙（気持ち）から見えてくる状況はどんなものか」との観点で見られると生徒の状況や気持ちが、より見えてくる事があるかもしれません。

ほとんどの団体が送金による奨学金授与を実施している中で私たちが「直接生徒へ奨学金を手渡す」方式を続けているのは、

1. 生徒の選考に際して各種のまちがいや不正をチェックし防止する機会にする。
2. 生徒たちに「顔の見れる支援」をすることで親しみを持てるようにする。
3. 申請書類の準備や当日会場に来ることで「何かを求めるときは自分から積極的に行動することを学んでもらう。

等のメリットがあるためであり、これは現在でも変わらない状況だと思います。

今年支援した奨学生の内訳

・サッケオ県	… 16名 (内新規 2名)	・プリラム県	… 18名 (内新規 3名)
・スリン県	… 14名 (内新規 2名)	・シーサケット県	… 17名 (内新規 0名)
・ヤソトーン県	… 18名 (内新規 1名)	・ムクダハーン県	… 15名 (内新規 2名)
・サコンナコン県	… 23名 (内新規 3名)	・ナコンパノム県	… 17名 (内新規 2名)
・カラシン県	… 17名 (内新規 0名)	・ロイエット県	… 17名 (内新規 2名)
・マハサラカーム県	… 16名 (内新規 2名)		
<u>合計 187名 (内新規 19名)</u>			

支援した学生の人数は、昨年より40名余り少ない187名（新規は25名程少なくなっていました）となりました。東日本大震災の影響は私たちの活動にもこんな形で影響がでたものと思われます。

皆様の友人、知人へのお声掛けで支援の輪を再度広げたいと思いますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

6月29日（マハサラカーム県、）

いつも通りの授与式のセレモニーの後、昨年同様「何か出来る事を用意してきて欲しい」と通知をした子どもたちからは2年目と言う事もあり昨年のような緊張感も少し薄れて和やかなときを過ごす事が出来ました。

同日（ロイエット県）

午後の授与式は14時から始める事が通例ですが、我々スタッフが到着した13時過ぎにはもうほとんどの子供たちが到着しており改めて教育委員会の担当者と学



校の先生たちの協力には感謝の言葉もありませんでした。 同いサーン地方でもここロイエットとマハサラカームは、式後のお楽しみの時間になっても自分から進んで披露する子が少なくなつしみ深い（引っ込み思案？）な子供たちが多いように感じられました。



6月30日（カラシン県、）

昨年の挨拶の中で子どもたちに負担をかけたくないとの思いから「贈り物は辞退したい」旨を子供たちへ伝えたのですが、それでも6～7人が自分や家族が作ったものをプレゼントしてくれ、買ったものではない為ありがたいいただきましたが、嬉しいやら荷物になるやらで何か複雑な気持ちでした。なお、お礼の言葉と共に「来年は（贈り物よりも）皆の笑顔が一番見たい」とお願いしました。



7月1日（サコンナコン県）

昨年の報告でも書きましたが 全県的な「藍染の県として売り出す」運動は今年も着実に継続されており市内やホテルで藍染の洋服やハンドバックなどが目に付き、日曜日にもかかわらず協力いただいた教育委員会や先生の中にもその服を着ている方がいました。今年も式後にノンウアトン村のはずれにある生徒宅を訪問して「今年新築した家です、そして隣が今までの家です」と紹介されましたが、古い家は家と言うより崩れかけた物置としか見えず新しい家も部屋の仕切りは壁ではなく竹を編んだ板で出来ており外壁は全てトタンを打ちつけただけで床もコンクリートの打ちっばなしにごさをひいて生活しており、今年も「奨学金を渡せてよかった」と思うと共に涙腺の緩みを気づかれないように景色を見るふりをしてしまいました。



7月2日（ナコンパノム県）

雨の中での集合となり授与式会場の電気も消えてしまい薄暗い中での授与式となりましたが特段の支障も無く生徒達へ奨学金を手渡して、式後の出し物もたくさんの子供の手が拳がり無事に終える事が出来ました。中では県内に住んでいる7つの少数民族のひとつである「セ族」の男の子が民族の言葉で挨拶をしてくれた時は彼らが差別される事無く「普通に」暮らしている様子が想像できて印象的でした。



同日（ムクダハン県）

ここでも生徒達が集合する時間に雨が降ったためバイクで来た子供は書類まで濡れてしまった子も居ましたが停電等のアクシデントや事故も無く式を行う事が出来ました。挨拶された教育委員会のチャルーン副委員長は18年前にキャンが同県で実施した4つの校舎建設のワークキャンプをした際の教育委員会の担当者であった方で、当時の様子とともに長年に渡るキャンの継続的な支援に対し改めてお礼を述べられると共に子供たちに対しては「キャンの期待にしっかり応えるようにしてほしい」とおっしゃるのを聞いた時には、キャンの20年と言う歴史を感じると共に、先輩方への感謝の気持ちと、この有意義な活動を後輩たちに引き継いでいく責任を改めて感じた次第です。



7月3日（ヤソトーン県）

昨日までの雨も上がり、今年もロイエット市内へ行くより距離が近いのでロイエット県の学生たちが6名参加してなごやかな授与式となり、チャャプーン副委員長もやさしい語り口でキャンへの感謝と子供たちへの励ましを述べられました。この県はカラシン県と並んで子供たちからの感謝の贈り物（自分や家族が作ったものばかりです）が多いのですが、自分で作ったものを手渡されるときは「この感動と嬉しさをドナーの皆様へより多く伝えよう」と思いました。絵や工芸品などで持ち帰ることが出来るものは後日ドナーの方へ送らせていただきますが、枕やござ等かさばったり日本へ持ち込めないものは申し訳ありませんがタイ国内の方へ差し上げたりして処分をさせていただきますのでご了解いただきたくお願いいたします。

同日（シーサケット県）

授与式を開始する前に、我々を歓迎して、「ピン」というタイの民族楽器（ギターのようなもの）を奨学生の男の子が6～7分演奏してくれその趣向にとっても感動しました。シャオーム委員長はシーサケット県の今教育委員会の方針（1、教育の質を高め 2、子供たちへ教育のチャンスを与え 3、子供たちを参画させる）を話されたので、松本も「キャンは同様の趣旨で奨学金を渡して

いる」事を子供たちへ伝えて、今後とも正しい道を歩んで欲しいとお願いしました。

7月4日（スリン県）

授与式後の出来る事コーナーで、中学生の女の子が「ストローで花かざりを作る」様子を実演してくれました。リボンの代わりにカラフルなストローを編んで切って曲げて作るのですが、リボンの代わりにストローを使うと言う発想のすばらしさと手際の良さに、説明しながら実演する様子をただただ感心して見物してしまいました。



同日（プリラム県）

高校1年生の女の子が日本語の歌（3～4年前の「嵐」の歌）を歌ってくれましたが、その歌のテープだけを教材に独学で（僕が）全ての単語を聞き取る事が出来るレベルまで練習したその「がんばり」に感心しました。なお当日会場で「生徒宅を訪問したい」とお願いし、高校1年のオンちゃん宅を訪問しました。3部屋しかない12～3坪の平屋にお邪魔して、両親共に死別し現在は祖父母と兄と生活しており、祖父が家族が食べる米を4ライほど作っているだけで祖母は足が悪くて働けず兄の少ない現金収入で学校へ行かせて貰っている状況を聞いたときは、（家を訪問したときはいつも感じるのですが）奨学金をこの子に渡せてよかったと思いました。



7月5日（サツケオ県）

サツケオ県は現在の教育委員長が赴任した当時は全国的にも学力が劣っていたが教育委員会や学校の努力の結果現在では優秀な成績を残すほどになり、課外活動の面でも活発な活動を継続できるようになったそうで、先生たちの意識の高さを示すものとして他県と比べて男子生徒への支援割合が約50%と多い（他の県は20～30%程度）事が、女生徒に比べ積極的に先生に寄っていかない男子生徒へも先生の目が行き届いているためだと感じました。

なお生徒たちは、「代表できた人（松本）ではなく私を支援してくれている人はどんな人なんだろう」との興味を持っていますので皆様からのお便りを心待ちにしております。皆様からのお便り（今朝は何を食べましたか？ 今、一番の楽しみは何ですか？ 日本や私について何が知りたいですか？ 等なんでも結構です）を事務局宛に（日本語で結構です）お送りいただければタイ語に翻訳して生徒へ送らせていただきますのでこの機会にお便りをいただきたくお願いいたします。

2012年7月 松本 康裕 記

運営委員会

(2012年5月～7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月26日	事務所	奨学金アサイン作業
運営委員会	6月23日	事務所	授与式準備
運営委員会	7月28日	休み	

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務局に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務局へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。
 この夏の猛暑は異常ですね。連日、熱中症で搬送される人のニュースが流されています。原子力発電所の問題で「節電」しろと言いますが、エアコンなしでは生活できません。我が家も今流行りの太陽光発電を取りつけてみました。天気のいい日は十分発電できるので、エアコンも気兼ねなく使えます。ただ、電気の使用量が数字で確認できるので、ちょっとでも節電しようと心がけるようになりました。太陽光発電システムはお勧めです。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.58>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2012年7月30日
 住所 〒450-0003
 名古屋市千川区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>